電子カルテシステム導入事例

Empowered by Innovation

名古屋第一赤十字病院 様

電子カルテと連動した患者誘導と自動会計システムで患者サービスの飛躍的な向上を実現

名古屋第一赤十字病院 様

電子カルテと連動した患者誘導と自動会計システムで患者サービスの飛躍的な向上を実現

名古屋第一赤十字病院は、1937(昭和12)年に設立され地域では所在地の地名を取って「中村日赤」と呼ばれて住民から親しまれています。同病院では、長い歴史を重ねた病棟をリニューアルする全面改築整備事業が2003年に始まり、06年に東棟が09年1月に西棟が完成し新病棟での診療がスタートしました。

新病棟では、電子カルテシステム「MegaOakHR」を中心とする病院情報システムがオープンから順調に運用されています。今回の取材では、患者サービスの向上を目指して構築された自動会計システムの運用を中心にご紹介します。

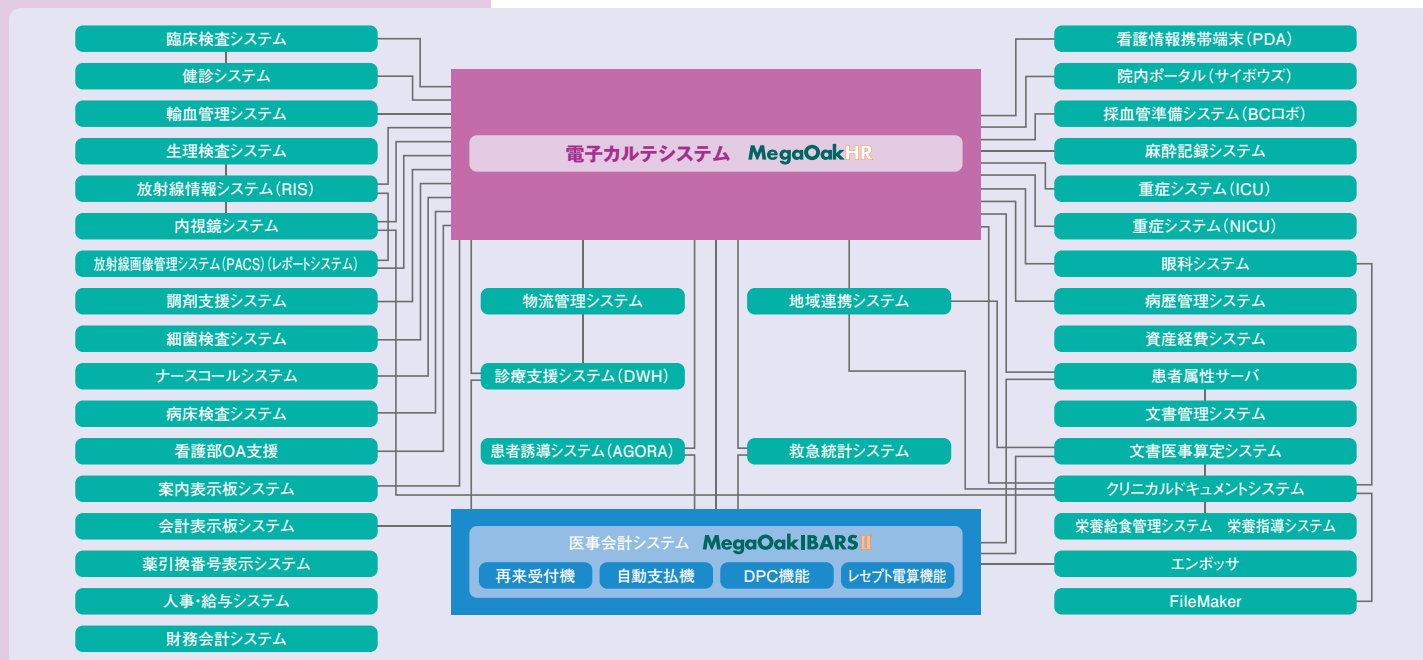
新病棟の完成で地域のニーズに応える高度な急性期医療を提供する

6年にわたる全面建て替え工事を経てリニューアルされた名古屋第一赤十字病院は、病床数852床、23診療科、ICU/CCU/NICU、64列マルチスライスCT2台、PET/CTなど最新の医療機器・設備が揃っています。新病棟の開設の経緯とコンセプトを小林陽一郎院長は次のように語ります。

「旧病棟は、70年の歴史の中で改築や建て増しで時代時代の医療に対応してきたのですが、老朽化や動線の複雑化など限界がきていました。病院に併設されていた看護学校の移転で、その敷地を利用して高度急性期病院として地域や時代のニーズに応える最新の設備を揃え、患者さんが安心して療養できるような環境にも配慮した施設としてリニューアルしました」。

新病棟では『癒しの森』をコンセプトとして、明るく開放的な外来ロビーや彫刻、絵画などのアートの充実など療養環境の改善を図っています。同時に人口220万人の名古屋市西北部の基幹として、3次救急に対応する救命救急センター、地域医療を支える地域医療支援病院、愛知県で最初の総合周産期母子医療センターの指定を受け、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院(地域中核災害医療センター)など、救急から周産期医療まで地域の高度急性期医療の中核としての役割を担っています。

「これからは、地域の中で医療機関が機能分化して連携しながら適切な医療を提供する地域完結型の医療が求められます。新病院では、高度急性期の砦としての医療を提供できる体制が整いました。医療を取り巻く環境は厳しいですが、幸いにして当病院は患者さんにも医師をはじめとするスタッフにも恵まれています。その背景にあるのは人道、博愛の精神を基本とする赤十字への信頼感、安心感です。急性期病院としての役割、赤十字病院としての責任を果たしな

病院情報システム概要～病院情報システム関連図

院長
小林　陽一郎 氏

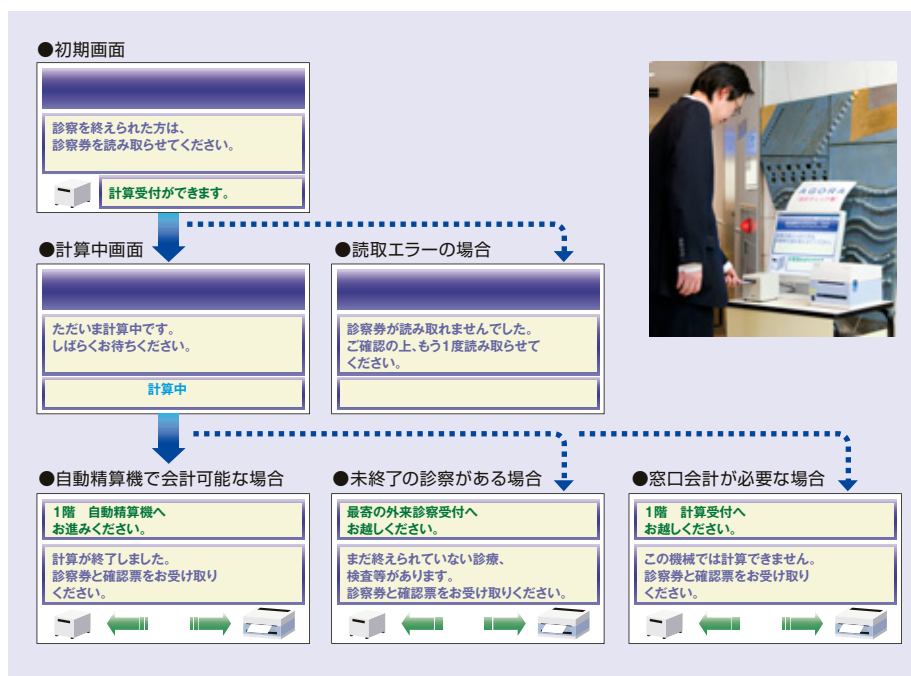
医療情報部　部長
錦見　尚道 氏

管理局業務部
医療情報課 課長
中角　竜二 氏

がら、地域住民からの信頼に応えられるようにしっかりとした医療を提供していきたいですね」（小林院長）。

852床23診療科の大規模病院でマルチベンダの病院情報システムを構築

同病院では、09年1月の新棟オープン時からNECの電子カルテシステム「MegaOakHR」（Windows Vista版）が30以上の部門システムと連携し、1,000台を超える端末で利用されています。さらに、NECの最新の医事会計システム「MegaOakIBARSII（セカンド）」が大規模病院として初めて稼働しました。システムの導入を担当した医療情報部の錦見尚道部長は導入の成果と経緯を振り返って次のように語っています。

「電子カルテではカルテの電子化、フィルムレス化を実現し、転記作業の削減や情報の共有化などによって日常の診療がスムーズに行えるようになっただけでなく、患者誘導システムと自動会計システムにより、待ち時間の短縮による患者サービスの向上が期待できるようになりました。さらに、電子カルテの導入はIDなどで個人を認証して安全で確実な医療を実現するための先行投資の意味合いもあります。システムの導入では、病院職員の“人の和”がプロジェクトを進める上で大きな力になりました」。

AGORAと自動精算機による外来患者の導線ナビゲーション

電子カルテと連動して患者誘導と自動会計を統合した案内システムを構築

同病院では、外来に電子カルテと連携して患者への会計誘導を行う「AGORA」（Automated Guidance system fOr Rapid Account）を構築しています。また、この「AGORA」を中核として、電子カルテ、医事会計システム、自動精算機を結びつけることにより、自動会計システムの実現にも成功しています。管理局業務部医療情報課の中角竜二課長は自動会計システム構築のコンセプトを次のようにいう。

「新病棟では、電子カルテの導入とブロック外来の採用で外来患者さんの動線が大きく変わりました。患者さんに不便をかけずにスムーズな診療を行える運用が必要でした。そこで患者さんを会計窓口へわかりやすく誘導する方法として発想したのが『AGORA』です」。

新病棟では、ロビーは1階から3階まで吹き抜けの構造となっており、1階に各種受付や会計、薬局などが設けられ、2階と3階が外来診察室となっています。関連する診療科の外来を集約して「ブロック外来」を構成し、『AGORA』は各ブロック外来受付および検査・放射線受付に設置されています。患者は、診察や検査が終了した段階で『AGORA』に診察券を通します。そこで検査や診察の予定が残っているかのチェックが行われ、すべて終了していれば、人の判断での計算が必要なときは精算窓口（計算受付）への案内、自動精算が可能ならば精算機へ案内される仕組みになっています。

名古屋第一赤十字病院 様

「AGORAは、診察の済んだ患者さんを1ヶ所に集中させずにお待たせしないことと、病院側では分散会計で職員の負担を減らすという大きな役割を果たしています。新病棟の診療がスタートする前には、外来患者の4割程度に適用されればと考えていたのですが、現在は約半分の患者に適用できています。受付から会計終了までの院内の滞在時間で20分程度の短縮にも繋がっています。患者さんからは、会計待ち時間が減ったと評価をいただいています」(中角課長)。

電子カルテのペーパーレス運用を支える様々なシステムを連携

自動会計を行うには、必要な情報が電子カルテで入力され、医事システムを通じて外来の患者請求に的確に反映されることが必要です。

「自動会計のためには、電子カルテでのフルオーダが前提になります。オーダでは処置、手術、初再診、指導料などをどのようにシステムに載せるかが難しいところでした。これらのオーダはいわゆる"汎用オーダ"を利用し、医師に入力を依頼しました。さらに、医事システムから情報をフィードバックして電子カルテで表示させるような連携をシステム的に工夫して、電子カルテ側での入力漏れを防止し、確実に患者請求へ反映させました」(中角課長)。

錦見部長は、自動会計をはじめとする病院情報システムと診療報酬体系の課題をつぎのように語っています。

「現在の診療報酬体系は過去からのさまざまな経緯が蓄積して複雑化していて、コンピュータのみで処理するには適さない構造になっていることが一番の課題です。病院情報システムが本来の能力を発揮するためには、この部分から見直していくことが必要ではないでしょうか」。

同病院では電子カルテをペーパーレスで運用するためのツールとして、院外から持ち込まれる紹介状などの紙の書類をスキャンして管理するシステムや診断書の作成・管理を行うシステムなどを用意しています。

「システムの構築では電子カルテを中心にしながら、それだけでは実現できない機能、足りない部分はなにかを判断することが重要です。今回の構築では、その上で運用をサポートする各種のシステムをリンクして、文書管理だけでなく診断書の作成作業を医事会計まで結びつけるシステムを構築しました。周辺のシステムを含めて電子カルテに融合できたことがスムーズに運用できている要因であり、その部分はマルチベンダでのシステム構築に多くの実績があるNECだからこそ可能であったのかもしれません」(中角課長)。

電子カルテの評価とこれからの展望を錦見部長におうかがいしました。

「これだけの規模の病院の電子カルテ新規導入としては、トラブルもなく順調なスタートであるとの客観的な評価をいただいています。院内の情報共有・伝達は実現しましたが、病院情報システムに本当に期待するのは、診療データベースの活用です。今後は蓄積された診療データを基にして、病院全体を俯瞰して分析できる経営指標や臨床指標を出せるような真の病院情報システムを目指して、DWHなどの活用についてNECと協力しながら開発を進めていく予定です」。

User Profile

名称:名古屋第一赤十字病院
所在地:名古屋市中村区道下町3-35
病床数:852床
診療科目:内科、腎臓内科、内分泌内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、総合診療科、小児科、一般・消化器外科、血管外科、心臓血管外科、乳腺・内分泌外科、呼吸器外科、小児外科、形成外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、女性泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、歯科口腔外科

主な事業
1937年日本赤十字社愛知県支部病院として開設、54年名古屋第一赤十字病院と改称、2003年救命救急センターに指定、06年地域医療支援病院の承認、07年災害拠点病院(地域中核災害医療センター)指定、08年地域がん診療連携拠点病院に指定

お問い合わせは、下記のNECへ

NEC 医療ソリューション事業部
www.megaoak.com
〒108-8420　東京都港区芝五丁目29番23号(明生田町ビル)
TEL.03(3456)6156(ダイヤルイン)

日本電気株式会社　〒108-8001　東京都港区芝五丁目7-1(NEC本社ビル)

PRINTED WITH SOYINK　このカタログは、再生紙および環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

2007年3月現在